

# 県外派遣報告書

（社）栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	全国高校選手権大会 ウィンターカップ2023	開催地	東京都
報告者名	慶野芽以	派遣期間	令和5年12月23日～24日

## 12月23日(土)1日目

審判員名	CC 藤本梨紗(神奈川) U1 慶野芽以 U2 藤林比登美(埼玉)
カード	女子1回戦 9:00 仙台大学附属附属明成(宮城)63-79日本航空石川(石川)
ゲームについて	
<p>・PGCでは、留学生選手まわりのプレーについて</p> <p>①留学生に対するDF(手の使い方、ポジション取りなどの守り方)</p> <p>②留学生の肘の使い方やヴァイオレーションなどの大きく2つについてを話し合い、整理をしながら進めていくことを3人で確認した。</p> <p>⇒PGCで確認したことをより丁寧にコート上で表現する必要があった。留学生に対するDFの大きなコンタクトを最初に取り上げたのが1Qの最後だった。ゲーム序盤から、チームへのメッセージとして判定に表すことができれば良かった。</p> <p>・ゲーム後半、点差が離れ控えメンバーに交代した際にプレーへのアジャストが遅れてしまった。</p> <p>⇒ゲームの流れや雰囲気が変わることへの準備が必要。ゲーム内容が変化した際に、また改めてプレーを整理していく必要がある。</p>	

## 12月24日(日)2日目

審判員名	CC 本間さとみ(東京) U1 慶野芽以 U2 須藤れい(群馬)
カード	女子2回戦 12:20 東海大学附属福岡87-54柴田学園(青森)
ゲームについて	
<p>・留学生を有したチームの試合だった。クルーで協力して留学生まわりのプレーを丁寧に確認し、判定を積み重ねることができた。</p> <p>・ドライブに対するDFの手の使い方(守り方)については、さらに整理が必要だった。</p> <p>⇒ファウルをされて2～3回目の接触で鳴らすケースもあった。1回目の接触で判定に繋げたい。レベルが高いゲームになればなるほど、特に質の悪い手の使い方については逃さないようにする。</p> <p>・手の使い方が悪い選手を捕まえることができず、1ゲーム通して整理しきれなかった。</p> <p>⇒ゲームの中で、違和感を覚える選手を早くピックアップする必要があった。些細なことでも違和感を感じた際に、その選手を頭にインプットし、クルーでも共有できるようにする。</p>	